

米国のソーシャル・セキュリティ信託基金について

1. ソーシャル・セキュリティ信託基金

- ・米国の公的年金である老齢・遺族・障害保険(OASDI)は、ソーシャル・セキュリティと呼ばれ、その資金は、独立したソーシャル・セキュリティ信託基金で管理されている。
- ・同基金は、老齢・遺族年金(OASI)信託基金と障害年金保険(DI)信託基金の二つの基金から構成されており、運用は財務省公債局で行われている。

2. 信託基金理事会

- ・ソーシャル・セキュリティ信託基金には、信託基金理事会が設置されており、6名のメンバーで構成されている。うち4名は官職指定で、財務長官、労働長官、厚生長官、社会保障庁長官がメンバーであり、財務長官が執行理事となっている。のこり2名は一般から選ばれる。
- ・ソーシャル・セキュリティ法により、ソーシャル・セキュリティ信託基金のうち、現在の支払いに必要がない部分を自らの判断で投資することは、信託基金の執行理事(財務長官)の義務とされている。

3. 運用対象

ソーシャル・セキュリティ法により、ソーシャル・セキュリティ信託基金の積立金は、利付国債、あるいは連邦政府がその元本と利息を保証する証券へ投資するものとされ、財務省が発行し、ソーシャル・セキュリティ信託基金のみが購入できる非市場性の特別債券にすべて投資されている。

4. 運用実績

- ・信託基金理事会は、年1回、ソーシャル・セキュリティ信託基金の財政状況を連邦議会に報告することとなっており、年次報告書は一般にも公表されている。
- ・ソーシャル・セキュリティ局のウェブサイトを通じて、ソーシャル・セキュリティ信託基金の情報が公表されている。

5. 今後の財政予想

- ・今後の財政予想では、今後5年間は収支は拮抗しているが、2015年ごろから支出が急速に増加し、2033年には積立金が枯渇して、本来の給付額の3/4程度の給付しか受けられないと予想されている。